



社団法人 茨城県放射線技師会

INFORMATION

〒310-0851 水戸市千波町1918 茨城県総合福祉会館内 発行責任者：横田 浩 編集：小原 孝夫
TEL 029-243-6747 FAX 029-244-6767 E-mail mailbox@iart-web.org

《平成23年度 第3回 理事会議事録》

開催日時：H24年2月8日(水)18:00～20:00

場所：茨城県放射線技師会事務所

出席：理事 横田浩，長谷川光昭，
鈴木達也，平井正幸，風見ひろみ，會澤敏広，
川又誠，小仁所圭子，坂井朋夫，館野誠，
田中信一，千葉登，野澤哲也，広瀬和夫，
宮本勝美，村木一夫

監事 中澤洋治

委任者：小原孝夫，仲田智彦，佐藤斉，
波多野浩嗣

議長：横田浩

議事録作成：長谷川光昭

議事録署名人：鈴木達也，平井正幸

会議開始時点出席理事14名(最終16名)委
任4名で理事会開催規定を満たすことが宣言
され、議事に入った。

【議事】(敬称略)

【1】日本放射線技師会報告(横田会長)

- ・第71回日本放射線技師会臨時総会が12月11日に東京、笹川記念会館で開催された。解散準備総会においては公益社団法人への移行が認定された場合、社団法人日本放射線技師会を解散する提案が行われ、設立準備総会においては、解散手続き後、公益社団法人日本放射線技師会として登記する提案等が行われ、すべて賛成多数で承認された。
- ・診療放射線技師業務のグレーゾーン(造影剤投与、抜針、注腸チューブ挿入・抜去、核医学検査等)について検討が進められている。

【2】茨城県放射線技師会報告(横田会長)

- ・日放技のフレッシュャーズセミナーは地方技師会との共催となり、費用は日放技が持つ。茨城では昨年行ったが、次年度も開催予定である。
- ・日放技のCT・MRIセミナーを茨城で24年度に開催する。
- ・茨城の公益法人化について、電子申請を行った。県からの連絡待ちである。

- ・平成24・25年度役員選挙が決算総会に合わせて行われる。そこで各5地区より選挙管理委員をだしてほしい。技師会事務所に連絡する。また、役員で今回降りる人は、後任を推薦すること。【承認】

【3】学術大会について(鈴木副会長)資料1

- ・県立医療大学の佐藤准教授の教育講演を市民公開講座にする。新聞社等の無料広告コーナーへの掲載を依頼し、また、総会資料を送るとき、市民公開講座のポスターを同封する。3日の準備は15:00集合、当日は8:15集合とする。【承認】

【4】H24年度予算(案)(川又理事)資料2

- ・理事会を3か月に1回にすること、インフォメーション発行を季刊にすること、また、24年度はマンモグラフィ講習会は行わず、新人研修会は日放技のフレッシュャーズセミナーとすること等により、H23年度180万円の赤字予算であったが、H24年度は100万円の赤字予算となる。80万円圧縮したが、25年度以降、技師会の事業の在り方、予算の立て方を考えないと底を尽いてしまう。特に公2(研究会等)について、制限を設けないと健全な予算立てができない。来年までに会員の慶弔金の見直し等についても検討していく。また、予算書を見ると事業の数が多し。もう少しシンプルにする必要がある。また、会員数を増やす方法についても検討していく。【承認】
- ・24年度から福利厚生費として事務所の事務員の雇用保険を計上した。支払う割合については田尻監事、本人と相談して決める。【承認】

【5】第16回茨城県立医療大学放射線技術科学科との懇談会(1月18日)(村木理事)資料3

- ・今年度の学生の県内就職率は3割程度である。以下、資料の通り。

【6】レディース委員会について

(小仁所理事)

- ・人材ネットワーク等の課題も残っているが、レディース委員会を今年で解散する。

【承認】

【7】県東地区シンポジウム (田中理事)

- ・県東地区でH24年5月10日にシンポジウムを開催する。また、長谷川副会長より新しい日放技のカウント申請書を理事全員に配布するので申請する場合、長谷川副会長にメールする。

【8】H24年度学術大会について (横田会長)

- ・H24年度学術大会は、日本放射線技術学会関東部会研究発表大会が、2月につくば国際会議場で開催されるので、演題の分散、実行委員の手間を考慮して開催しない。予算総会と講演会を企画する。

【承認】

【9】広報に関する規定(案) (長谷川副会長) 資料4

- ・前回理事会で配布できなかった広報に関する規定(案)を配るので、問題等があれば、長谷川副会長に連絡する。

*次回理事会開催については、決算総会の日程が決まり次第、連絡する。

《 お 知 ら せ 》

1. 第31回茨城県放射線技師学術大会

並びに平成24年度予算総会開催の件

平成24年3月4日(日)茨城県立医療大学にて第31回茨城県放射線技師学術大会並びに平成24年度予算総会を開催致します。日ごろの研究や研鑽の成果を是非この学術大会で発表していただければ幸いです。

多数ご参加をお願い申し上げます。尚、同日・同会場にて平成24年度予算総会も開催致しますので、多数の御出席よろしくお願い致します。

日 時 : H24年3月4日(日)9時30分～

会 場 : 茨城県立医療大学

内 容 : 特別講演・教育講演・会員研究

発表・学生研究発表・シンポジウム、

ランチョンセミナー・H24年度予算総会

参加費 : 会員 1,000円、非会員 3,000円

学生・他医療職 無料。

今回市民公開講座として、「福島第一原子力発電所事故による放射線影響を考えよう」と題し、県立医療大学 佐藤斉准教授によるご講演と、教育講演として、「診療放射線技師と研究」と題し、県立医療大学の森 浩一教授のご講演が企画されています。また、シンポジウムは、「乳がん診断における各モダリティの果たすべき役割」となっております。多数のご参加よろしくお願い致します。

《 行 事 報 告 》

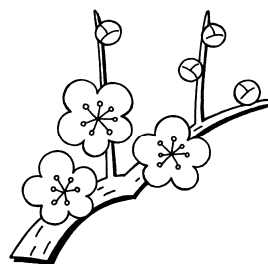
1. 第83回超音波研究会報告書

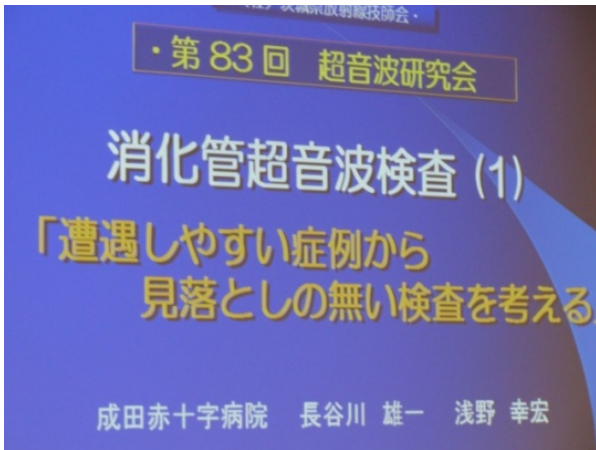
H24年1月14日(土)、筑波メディカルセンター病院 TMC ホールにて、第83回超音波研究会を開催しました。今回は、消化管超音波検査～遭遇しやすい症例から見落としの無い検査を考える～をテーマに、消化管超音波検査の第一人者である成田赤十字病院 検査部生理学検査科課長の長谷川雄一先生からご講演頂きました。先生には無理を言って90分程度の講演をお願いしていましたが、ご厚意によりライブデモを含め3時間近くの講演になったにもかかわらず、途中退席する参加者はなく全員が時間を忘れたかのように真剣に聞き入っていました。

講演では、まず消化管に適した装置の設定や消化管の超音波解剖などの基本的な説明があり、続いて遭遇しやすい症例から普段なかなか経験する機会のない稀な症例まで、そのほとんどを動画で提示し解説して頂きました。後半のライブデモでは、消化管の系統的走査方法や描出のコツなど、実際に超音波装置を使用しモデルさんを走査しながら、わかりやすく解説して頂きました。

今回の講演を通して、消化管超音波検査の初心者には消化管を見るきっかけに、普段ルーチンとして消化管を観察しているベテランは更なるステップアップに繋がったと思います。参加人数は30名ほどでしたが、新年早々にとっても良いお話を聞くことができました。

(文責 大石武彦)





2. 第11回茨城県放射線技師会 機器管理士部会 研修会報告

H24年1月19日(木)筑波メディカルセンターにて第11回茨城県放射線技師会機器管理士部会研修会を開催しました。

講演内容は、①医用画像表示モニタの基礎 (株式会社ナナオ 小川滋久先生)

モニタの種類とその特徴、モニタの管理について講演された。フィルムレスは加速しているが、モニタを管理する部署が存在している施設は少ないこと、簡易的に管理するソフトウェアなどを病院側が導入する難しさについて報告。フィルムレスの際は可能な限り管理部署を設け、管理の重要性を上層部に訴えることが重要とまとめた。

②茨城県におけるモニタの管理に関するアンケート調査報告 (取手医師会病院高倉有先生)

H21年度に実施されたモニタ管理におけるアンケート調査のまとめを報告。

③フィルムレス時代のモニタ管理とフィルムレスの現状 (日立総合病院木幡篤先生)

日立総合病院におけるモニタの管理手法とフィルムレスの現状について報告。医療用モ

ニタと汎用モニタの選択、日常管理の手法、ソフトコピーの現状と問題点について報告を行った。

④放射線領域のメディアによる医療連携～CDを使った連携について～

(日立メディコ 井桁嘉一 先生)

CDメディアを用いたソフトコピーの現状と今後の展望について講演。画像サーバーの容量は自施設の検査件数と画像取得枚数より算出し設置している施設が多いが、近年ではソフトコピーによる他院からの画像が増加しデータ量が増えているという。熊本大学では院内と院外の画像データの比率は86:14とのことで、データを取り込む際の画像の選択や画像サーバーの容量増加(ソフトコピー分)を視野に入れたほうがよいと報告した。また、ソフトコピーの中にはソフトコピーの規約に違反したものもあり、取り込みできないものもあるので注意が必要である。規約に則っているものはIHE-JのHPに掲載されているため、それらのリストから購入することを推奨するとのこと。また、取り込み違反のCDのチェックは医療情報学会より判別可能なフリーソフトをダウンロード可能とのこと。

フィルムレスの導入前には管理体制を構築し、上層部に管理の重要性を訴えることが重要である。また、管理は厳しいものではなく、



できる範囲のものを継続的に実施することが重要と感じた。機器管理士部会ではこのような体勢構築のサポートや管理手法考案について活動するとともに、会員にも情報発信していきたい。



3. 第3回乳腺研究会開催

H24年2月12日(日)県立医療大学において、『ブラッシュアップセミナー』と題し、一度基本に立ち返り、さらに知識を深めていただくことを目的として開催しました。

内容は、品質管理 1 ～デジタル・アナログの基礎～、品質管理 2 ～機器管理～、ランチョンセミナー は～最新の乳房 X 線撮影装置について～、教育講演として、「マンモグラフィ読影の基礎」と題し、埼玉県立小児医療センター放射線技術部の田中 宏先生にご講演いただきました。当日はメーカーの方も含め 59 名の参加があり、盛況に開催することができました。(宮田真理子)



4. 撮影技術研究会報告

H24年2月18日(土)に講演会を実施した。内容は、「カセットタイプデジタルラジオグラフィックについて」の特別講演と、実機によるデモンストレーションを行った。

FPD の高性能化及び強度向上により、カセットタイプの撮影台にも FPD を装着できるようになり、救急時には通常のカセットと同じように使用できるようになってきている。今ま

では有線であったが無線によるデータ送信が開発され、専用 PC にて撮影後 3 秒程度で画像の確認ができるようになってきている。ポータブル撮影にも有効な手段として期待できる。

参加人数は、12 名と低調であったが、デモンストレーションは約 1 時間近く様々な条件での撮影が確認でき、参加者には非常に参考になった。(中野修生)

《 会 員 動 向 》

平成 24 年 2 月 1 日現在の会員数… 6 6 2 名

①入会手続きについて、入金の確認できずにまだ入会完了できない方がおります。新人技師のいる施設の会員は、送金しないと手続きが完了しない事を伝えて下さい。

②会員の登録内容変更は、日本放射線技師会ホームページから変更手続きをお願い致します。インターネットが利用できない方は、FAX で茨城県放射線技師会へ送信して下さい。

茨城県放射線技師会事務所

FAX 029-244-6767

《 編 集 後 記 》

H24年3月4日(日)予算総会が開催されます。会費の使い道についての議論の場ですので、学術大会と同時開催となりますが、多数の参加よろしくお祈り致します。ご都合により当日参加できない方は、必ず委任状の提出よろしくお祈り致します。

現在技師会の予算は、会費収入のみでは赤字予算となっています。貯金を取り崩しての運用となっていますので、できるだけ早く何とかしなければなりません。事業費率 50%以上を維持しながら事業費・管理費を削減していく必要があります。また、会員数を増やす努力も同時に行っていかなければなりません。非会員の技師がおられる施設では積極的な働きかけを是非お願いしたいと思います。

会員のメリットは？と良く言われますが、会員であること自体がメリットと考えています。CT 造影検査における自動注入器の操作等の業務範囲の見直しなどは、組織があつて初めて可能となる案件です。

編集委員：小原孝夫(多賀総合病院), 齋藤哲也(土浦協同病院), 島田雅彦(水戸済生会総合病院)、水木一弘(筑波大学附属病院), 佐々木雅一(日立総合病院), 奥山寿恵(日立総合病院)